

松前若狹守

蝦夷地之儀者、古來より其方家ニ而進退致來候得共、異國へ接し候島々、萬端之手當難整様子ニ付、先達而東蝦夷地、地被仰出、從公儀御處置被仰付候、西蝦夷地之儀も、非常之備等、其方手限難行届段申立、外國之境、不容易之事ニ被思召候間、此度松前西蝦夷地一圓被召上候、依之其方江ハ新規九千石被下候場所之儀ハ追而可相達候、

〔嘉永明治年間録〕<sup>四</sup>安政二年二月廿二日、松前伊豆守ニ封地ノ内替地ヲ命ズ、

松前伊豆守名代松前伊織へ達 此度御用に付、東西蝦夷地西在乙部村東在木古内村迄、島々共、一圓上知被仰付候、替地之儀は追て可被下、猶御手當等の儀も、御沙汰可有之候、右老中列座備前守申渡之、十二月四日に至り御達、今度東西蝦夷地西在乙部村東在木子内村迄、島々共一圓上知仰出され、右爲替地、陸奥國伊達郡の内高三万石、込高一万六千五百五十八石餘共被下置、且又御手當として、年々御金藏にて金一万八千兩づ、被下之、以來三万石高家格に被仰付候、

田數

〔北海道志〕<sup>五</sup>田野宜林牧場

田圃ヲ開墾スル元祿年間ニ始ル、其方法夏月茂草ヲ薙シ、中秋火ヲ放チ、明年春鋤犁シテ白田ト爲ス、之ヲ荒起ト謂フ、地味肥沃、培養ヲ用ヒズシテ物熟ス、五年ノ後、地力盡クレバ即チ棄テ他ニ移ス、故ニ段別毎ニ増減アリト云、古來其地稻米ニ適セズト爲シ、唯粟稗蕎麥大小豆等ノ雜穀及ビ菜葉ヲ植ユ、且松前氏ノ時、人民ノ收獲ヲ縱ニシテ、貢賦ヲ課セズ、寛政文化ノ間、幕府直轄スルノ時、上山藤山大川七重等ノ諸村皆墾地アリト雖モ、畝步零星亦稅額ナシ、秋田、庄内、南部、津輕等ナリ、明治以降大ニ舊習ヲ釐革シ、規ヲ設ケ、地ヲ畫シテ之ヲ民ニ授ク、是ヨリ畝步得テ算スベシ、夫

迺疆迺理ハ田ヲ授ルノ方、徂隰徂畛ハ地ヲ闢クノ務、故ニ戶口ニ次テ田野ヲ志ス、  
渡島國 田畝 寛政七年、文月村試田一段餘、文化二年、箱館近郷田百四十町、文政五年、箱館近郷